

Smart Times

「モノを買わなくなった」とよく聞かれました。必要なものがいつでも安く使える「シェアリングサービス」が普及し、車・家電・洋服・音楽・宿泊・住宅など、様々なサービスを利

用する人が増えている。2020年8月、富山県朝日町で「地域住民の移動をサポートする新しい公共交通サービス」の実証実験として「ノックルあさひまち」がスタートした。コロナ禍でバス会社の撤退が相

インターウォーズ社長

吉井 信隆



1979年リクルート（現リクルートホールディングス）入社。首都圏営業部長などを経て95年にインキュベーション事業のインターウォーズを設立、社長に就く。日本ニュービジネス協議会連合会副会長。

次ぐ中、この実証実験に注目が集まっている。

「ノックルあさひまち」はご近所さんの自家用車でお出かけついでに「乗っかる」ことができる送迎サービスだ。高齢者の多い地域の移動課題解決のため、朝日町役場、地元タクシー会社の黒東自動車商会、ズキ、博報堂が連携し、新たな交通網をつくる試みだ。

一般ドライバーの自家用車を活用し、地元の交通会社と連携した「自治体が運営する助け合いの公共交通

・ショックを契機に「資源の効率化」を成長戦略に組み込み、地域のコミュニティに根ざしたサーキュラーエコノミー（持続可能な社会を実現するための経済の革新的な産業モデル）を

「所有」から「共有」へ、生活スタイルが変わったとされている。

サーキュラーエコノミー

ノミーが広がっている背景には、おそろしく江戸時代の

「20年にユニセフが発表した子供の幸福度ランキングでオランダが1位になった」と聞いた。欧州委員会ではリーマン・ショックを契機に「資源の効率化」を成長戦略に組み込み、地域のコミュニティに根ざしたサーキュラーエコノミー（持続可能な社会を実現するための経済の革新的な産業モデル）を